

# 関東大震災・朝鮮人虐殺!の歴史を否定?

東京都の小池知事は、毎年9月1日に市民団体主催の「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」に、都知事名での追悼文を送るのを断った。「大震災の時に朝鮮人が殺害された事実が否定されることになる」という批判には、「様々な歴史認識がある」と歴史認識の問題にすり替えた。この事態の前に3月都議会一般質問で古賀俊昭議員（自民）が「碑文にある6千人余名という数を『根拠が希薄』で歴史をゆがめる、知事は追悼の辞の発信を再考すべき」と求めていた。

1923年（大正12）年9月1日午前11時58分、相模湾から房総半島南端にかけて最大震度7の地震が発生し、東京・神奈川を中心に10万棟以上の家屋が倒壊した。火災の発生もあり死者・行方不明者は10万5000人を超えた。そういう状況のなかで「朝鮮人が井戸に毒を入れた。暴動を起こしている」とデマが流された。そして軍隊や武装した「自警団」などにより、無抵抗の朝鮮人や中国人が殺害された。

「たしか3日の昼だったね。荒川の四ツ木橋の下手に、朝鮮人を何人も縛って連れてきて、自警団の人たちが殺したのは。なんとも残忍な殺し方だったね。日本刀で切ったり、竹槍で突いたり、鉄の棒で突き刺したりして殺したんです。女の人、なかにはお腹の大きい人もいましたが、突き刺して殺しました。私が見たのはでは、30人ぐらい殺していたね」（墨田区住民の証言）

「習志野騎兵連隊が出動し、亀戸駅の列車を調べて朝鮮人はみなひきずり降ろされた。そして直ちに白刀と銃剣下に次々と倒れていった。日本人避難民のなかからは嵐のように沸き起こる万歳歓呼の声。国賊！朝鮮人は皆殺しにしろ！僕たちの連隊は、その日の夕方から夜にかけて本格的な朝鮮人狩りをやり出した。」（兵士の証言）

こうした殺戮は千葉や埼玉などへと広がる。そして中国人や地方から出てきた日本人も方言などで朝鮮人に間違われて殺された人もいた。

そもそも誰がデマを流したのか？それは反政府暴動を警戒した内務省と言われている。その背景には植民地支配に由来する朝鮮人蔑視と、独立運動以降のいつか彼らから復讐されるのではないかという恐怖心や罪悪感があった。さらに労働組合幹部である平沢計七など10名が軍隊に拘束され殺害された「亀戸事件」など、地震という自然災害の混乱に乗じて、「反政府勢力を根絶する」という政府の意思が反映されていた。

しかしもっと深刻なのは、そういうデマに扇動され罪もない朝鮮人を殺戮した民衆達だろう。今も私たちの周りでは「北朝鮮のミサイル」問題などに「核爆弾をぶち込め」とか「中国人や朝鮮人を蔑視し、日本人は優秀だと」公言する人たち。

戦争は権力者たちだけで起こすのでない。それを積極的に支える民衆がいたことを忘れてはならない。そして「南京大虐殺は無かった」「従軍慰安婦は自分たちでなったんだ」など、日本がやってきた負の歴史を改ざんしようとする人たちである。都合の悪い歴史を押し隠した後にやって来るものは何か？再び愚かな戦争に突き進んでいいのだろうか？いま私たちは問われている。